



## 実り楽しむ

はじけるシバグリ  
神戸市北区の里山にて

秋は不思議とこころ豊かな気持ちにしてくれる。冬の寒さを乗り越えて迎える春の開放感も心地よいものだが、秋は春とはまた違った穏やかな雰囲気を感じさせる季節である。各地でにぎわう祭りも、春の五穀豊穰を願う祭りから、秋は実りの収穫を感謝しての祭りと変わり、おのずと盛り上がるのだろう。

“実り”それは神代の昔から人々が常に乞い願ってきた生きる上での糧であり、礎である。神に感謝し自然に畏敬の念を抱きながら生活してきた人間本来の心を忘れるようなことがあってはならない。

この季節に出会える果実の内、栗は里山のぬくもりが伝わってくるようで好きな果実のひとつ。

あらためて観察すると、栗はどの部分が実

で、どの部分が種なんだろうと考えたりする。針の衣を脱ぎ捨て、命をつなぐ旅路に飛び出していくのだろうが、実際に芽吹くのはごくわずか。せめて我々が口にするときにはしっかり感謝して食したい。

人もまたこの世に生を受けて一生を送る生きもののひとつ。草や樹と同じく実りの時期、収穫の季節があるはずだ。その時期・収穫の中身は人それぞれ異なり、自分への褒美であったり、周りの人や子どもたちへのつながりであったりする。いずれにせよ、励んできた現役活動も後輩に譲り、長く育んできた人生の実りをしっかり収穫し、楽しんでいこうと思っている。

(ひしのみ 127 号写真と文 菅田 忠志)